

# ぬま健司の提言詳報（第30号）

## 目 次

- 田辺市長との一般質問の全記録（12月6日）・・・p1～p12  
「まちの通信簿の導入を～共創のまちづくりをめざして～」

<要点>

※毎年度の市民意識調査の実施を改めて提言

※PDCAサイクルではなくCAPDサイクルを提言 「まちの通信簿」が起点

行政運営の年間サイクルを提言（ぬま健司の集大成）市長メッセージの疑問点を指摘

※年末年始はいったん立ち止まって行政運営の在り方を熟慮されることを促しました

- 12月定例会最終日の討論、採決結果・・・p12
- 一般会計補正予算に対する賛成討論と指摘事項・・・p13
- 一般職給与改定、議員・市長等の期末手当改定賛成討論・・・p14  
市長等給与は27年間据え置き、議員報酬は22年間据え置き
- 2024年 古賀市と古賀市議会の10大ニュース・・・p15
- 2024年の一般質問のテーマ一覧、議会活動報告・・・p16
- 臨時会報告、リーパスプラザこが駐車場、コガバス新宮延伸・・・p17
- 文教厚生委員会所管事務調査、増加傾向の産後ケア・・・p18
- 文教厚生委員会所管事務調査、「骨」か「血液検査」か・・・p19



写真は一般質問で答弁する田辺一城市長と質問する奴間健司（12月6日）

発行：2025年2月15日  
福岡県古賀市議会議員 奴間 健司





○奴間健司 議場の皆さん、インターネット中継や公共施設のモニターを御覧の皆さん、おはようございます。会派・友和の奴間健司です。

久々の朝一でございます。爽やかなひとときとなるよう努力いたしますので、市長、よろしくお願いをいたします。

さて、古賀市の小中学生は2学期制ですので、年2回通信簿を先生から受けております。小学生なら、「よくできる」、「できる」、「もう少し」の3段階評価、中学生なら1から5までの5段階評価で学習の進み具合が評価されます。生活面などについても担任の先生の所見が記入されます。ヒヤヒヤ、ドキドキを伴いますが、子どもたちの成長にとって欠かせない役割を持っていると思います。

ふと考えました。まちづくりも通信簿があつてよいのではないかと。評価するのは先生ではなく市民です。行政が市民評価を基に過ぎた1年を振り返り、次の年の頑張る目標を掲げる。まちの通信簿があれば、まちづくりをもっと身近に感じ、共創——共につくるまちづくりが進むのではないかと考えたわけです。そこで、今日は「まちの通信簿の導入を～共創のまちづくりをめざして～」について質問することにしました。

1、各課は事業評価や次年度事業計画を練るとき、市民評価をどう把握し、反映させていますか。

2、次年度予算編成に向けた市長メッセージを練るとき、市民評価をどう把握し反映させましたか。このメッセージの目的は何でしょうか。

3、第5次総合計画の前期5年間の総括に向けて、満足度・重要度調査の準備をしたらどうでし

ょうか。

4、5段階評価と満足度・重要度調査による市民意識調査と行政評価に基づく「まちの通信簿」を毎年度作成・公表することを提言します。

以上、市長の答弁を求めます。



○田辺一城市長 奴間議員の御質問、「まちの通信簿の導入を～共創のまちづくりをめざして～」についてお答えをいたします。

1点目についてお答えをいたします。本市では、アクションプランのローリング作業や成果報告書を作成する過程で事業の検証を行うとともに、業務プロセスを再構築するためのBPRを導入し、効果的な経営サイクルを確立しています。各課が事業の成果や次年度以降の計画を考えるに当たりましては、職員一人一人が市民の視点に立ちながら、アクションプランのローリングや成果指標について検証を行うとともに、市議会や行政区及び政策検証会議をはじめとした各分野の会議体、そして私自身が地域の行事などで市民の皆様から直接いただいた御意見や御提案を掛け合わせ、次年度以降に反映をさせております。

2点目についてお答えします。市長メッセージは、オール古賀の理念に基づき、私の公約である予算編成の見える化を実践するための重要な手法と位置づけております。この基本方針を念頭に置きながら、未来への責任を果たすため、当初予算に盛り込む施策について、全庁的に検討してもらうためのメッセージとしております。また、メッセージの結びには、これまでの定例会や委員会に



において、議員の皆様からいただいた御指摘や御提案を振り返るとともに、私自身が市民の皆様との対話や交流の中で得た声を反映することを書かせていただいております。

3点目についてお答えします。第5次総合計画は、第4次総合振興計画のように前期、後期という区分がないため、中間年での総括は行わず、4年間を毎年ローリングしながら検証する手法を取っております。今後の調査計画としましては、令和7年度が第3期まち・ひと・しごと創生総合戦略及びDXビジョンのスタート年となることから、第2期の振り返りとして市民意識調査を計画しており、その結果について、第5次総合計画の進捗管理に反映させることとしております。

4点目についてお答えします。本市は、成果報告書や毎年ローリングを行うアクションプラン及び市民意識調査の結果などを市民の皆様公表することで市政の見える化が図られているものと認識しております。今後も市民参画の場をはじめ、公民連携、シェアリングエコノミー、DXなどの取組を通して共創のまちづくりを進めてまいります。

○奴間健司 今回のキーワードは通信簿であります。再質問の冒頭にお尋ねしたいんですが、市長は古賀市の小中学校を卒業されておりますので、9年間、当時は3学期制だったので1年間に3回、通信簿をもらっていたと思います。市長にとって通信簿と聞いたときに、どんなことを思い出されるでしょうか。

○田辺一城市長 あゆみですよ、小学校のときはですね。中学校は通知表、5段階評価になりましたね、たしか。やはりいい評価をもらいたいと思って、日々一生懸命過ごしていたことを思い出します。

○奴間健司 学校の通信簿というのは、今市長がおっしゃったように、本人にとって大きな意味があるんですが、同時に保護者、御両親、家族にとっても我が子どものよいところを、あるいは課題を共有する貴重な記録になっているかと思えます。そういう意味で、どうでしょうか、当時御両親に

見せたときの気持ちとか、あるいは今になれば御自身の子どもの通信簿を見ることがあるのかどうか分かりませんが、どんな思いで御覧になっていきますか。

○田辺一城市長 両親に見せるときに、さして思い出はありません。あまり意識してなかったかもしれないですね。私も今、人の親ですので、おっしゃるように子どもの生育状況等を測る重要なツールになっていると思います。

○奴間健司 今、何でこんなことをお尋ねしたかといいますと、まちづくりももう同じ理屈ではないかと考えたんですね。年1回、これは学校と違うので毎学期ごととはいきませんが、年1回、まちづくりの目標に対しどこまで到達できたのか、課題は何か、次頑張る目標は何か、分かりやすくまとめた「まちの通信簿」があれば、市民も行政も議会も関係者全てが同じ気持ちでまちづくりに向き合えるのではないかと。

先ほどいろいろ答弁はあったんですが、現在取り組んでいることの説明だったような気がするんです。しかし、めざす姿といいますか、理想として今まではなかったかも分からないけど、新たなことに挑戦してみよう、「まちの通信簿」というのもちょっと面白いんじゃないか、こんな気持ちは質問通告を受けてから湧いてないでしょうか。

○田辺一城市長 面白いとは思いますが。

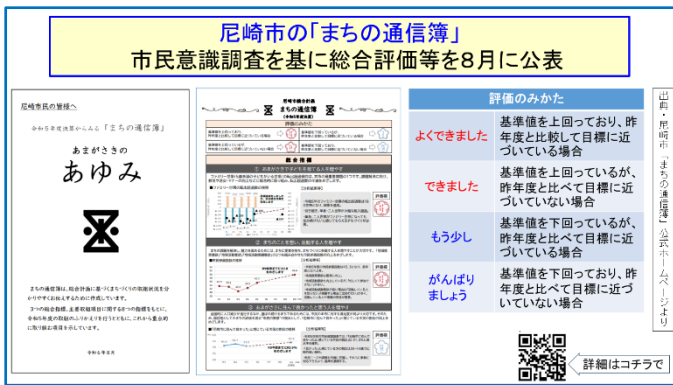
○奴間健司 つまんないなんて思われるよりよかったなと思うんですが、まちの通信簿って実例を御覧になったことございますか。

○田辺一城市長 今日このやり取りでお示しいただけるものと楽しみにしておりました。

### 「まちの通信簿」尼崎市の紹介

○奴間健司 実は、「まちの通信簿」は行政の関係者もちろん、議会の関係者もあんまり知られてない言葉だと思います。私は準備過程でとても参考になる実例と巡り会いましたので、御期待に添えて御紹介したいと思うんです。

画面をお願いいたします。



これは兵庫県尼崎市の「まちの通信簿」、まさに「あゆみ」です。今年（2024年）8月に公表されていまして、令和5年度、2023年度の結果になります。一番左の写真が表紙ですが、もうまさに通信簿そのものです。

真ん中には、総合計画の3つの総合指標について通信簿のような評価をしています。ここでは3つの指標ですが、1つは「あまがさきで子どもを育てる人を増やす」については「よくできました」。「まちのことを想い、活動する人を増やす」では「よくできました」。「あまがさきに住んで良かったと思う人を増やす」では「がんばりましょう」となっています。通信簿と同じようなマークがついています。

基準なんですけど、「よくできました」は基準値、つまりスタートの年の数値を上回り、しかも昨年度と比べて目標に近づいた評価。「できました」は、基準値は上回っているけど昨年度と比べて目標に近づいていない。「もう少し」は、基準値を下回っているが昨年度と比べて目標に近づいた。「がんばりましょう」は、基準値を下回り、なおかつ昨年と比べて目標に近づいていないという4段階評価になっていました。

私が注目したのは、このスタイルもそうなんですけど、評価の根拠を数値とグラフで説明しているところです。例えば「あまがさきに住んで良かったと思う人を増やす」がなぜ「がんばりましょう」となったのかなと考えると、2023年度は91%、基準値は91.3%だった。さらに前年度の92.7%も下回ったからだというふうな理屈になっています。よく調べているな、説得力あるなと感じたんですけど、これが1つの「まちの通信簿」のイメージな

んですが、何か伝わるでしょうか。

○田辺一城市長 市民の皆様には伝わりやすく工夫されて発信をされているのかなと思います。

○奴間健司 通信簿の担当である都市政策課、古賀市では経営戦略課だと思うんですが、職員の方と電話でヒアリングを受けました。今市長言われるように、いかに分かりやすく伝えるかということなんですが、実はそのバックにはデータがもの凄くあって、難しいことをいかに分かりやすく伝えるかという努力をされた結果、こういう通信簿に至ったというわけです。令和4年度と令和5年度の2回、通信簿を出していました。そういった背景も含めて、今日の議論の中で深まればなと思いますけども、少し通信簿への関心といいますか、面白さは増したでしょうか。

○田辺一城市長 これからどんな展開になるのか、楽しみになってきました。

○奴間健司 今日は爽やかにやりたいんで、あまり答弁に絡むことはしたくないんですが、さっきの答弁ではね、どうも聞いていると、あんまりこういう手法よりも、もう既に成果報告書とかアクションプランとかは公表してるので見える化は図られているという趣旨の答弁だったようにメモしました。それで十分なのかなと思うんですが、そのところはどうでしょうか。

○田辺一城市長 何事もどの営みもですね、常に十分であるという状況ではないというふうに考えないと進歩がないのですよね、十分かと言われると十分ではないという前提に立って、都度努力をしなければならないというふうに何事も思って市政運営をしています。

### 古賀市教育委員会による教育行政の通信簿

○奴間健司 いろいろ調べてたら、古賀市の中に既に尼崎の通信簿のようなものがありました。

画面をお願いします。

令和5年度古賀市教育委員会の点検及び評価報告書の一部なんです。毎年8月に作成され、私も所属している文教厚生委員会にはきちんと報告され、質疑も受けています。全ての教育施策を4段

令和5年度 古賀市教育委員会 点検及び評価報告書 令和6年8月 古賀市教育委員会	3. 教育活動の進捗と評価 <small>各部署が実施している施策、事業等の進捗状況及び評価結果について、各部署長が評価を行い、その結果を教育委員会に報告し、教育委員会が評価を行う。また、評価結果に基づき、今後の方向性を明確化する。</small>	<b>教育委員会</b> <b>全施策について評価（毎年度）</b> <b>今後の方向性を明確化</b>								
	<b>施策の内部評価 4段階の基準</b>	<table border="1"> <tr> <td>4 効果が上がっている</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>3 概ね効果が上がっている</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>2 あまり効果が上がっていない</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>1 改善の必要がある</td> <td>1</td> </tr> </table>	4 効果が上がっている	13	3 概ね効果が上がっている	27	2 あまり効果が上がっていない	0	1 改善の必要がある	1
	4 効果が上がっている	13								
3 概ね効果が上がっている	27									
2 あまり効果が上がっていない	0									
1 改善の必要がある	1									
<b>今後の方向性 4段階の基準</b>	<table border="1"> <tr> <td>拡充 更に拡充して実施する</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>維持 維持して実施する</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>見直し 見直して実施する</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>廃止 廃止もしくは終了した施策</td> <td>0</td> </tr> </table>	拡充 更に拡充して実施する	8	維持 維持して実施する	32	見直し 見直して実施する	1	廃止 廃止もしくは終了した施策	0	
拡充 更に拡充して実施する	8									
維持 維持して実施する	32									
見直し 見直して実施する	1									
廃止 廃止もしくは終了した施策	0									

階評価してるんですね、1から4。「効果が上がっている」がこの年は13、「おおむね効果が上がっている」が27、「あまり効果が上がっていない」はゼロ、「改善の必要がある」が1となっています。そして、今後の方向性として、「更に拡充して実施する」が8、「維持して実施する」が32、「見直して実施する」が1、「廃止もしくは終了した施策」はゼロ。ちなみに、「見直して実施する」は学校給食の公会計化となっていました。外部有識者の評価も受けておられます。法律で定められていることとはいえ、私は非常に高く評価をしております。この存在を知らない職員の方も結構多いようですが、市長いかがですか。

○田辺一城市長 もちろん私は教育委員会から報告を受けていますので存じ上げていますし、この手法、教育委員会しっかりやってくれてるなと思っています。

○奴間健司 さすが子どもを預かる教育委員会だけあって、自らの通信簿を作っているなというふうに受け止めました。「教育立市」と古賀市が評価されるのは、こうした作業を長年積み重ねてきた結果だと私は受け止めています。こういった手法が市役所内に既にあるわけですから、市長部局においても可能ではないかなと考えますが、いかがでしょうか。

○田辺一城市長 もちろん人的リソースを割いていけば不可能ではないことであろうとは思いますが。

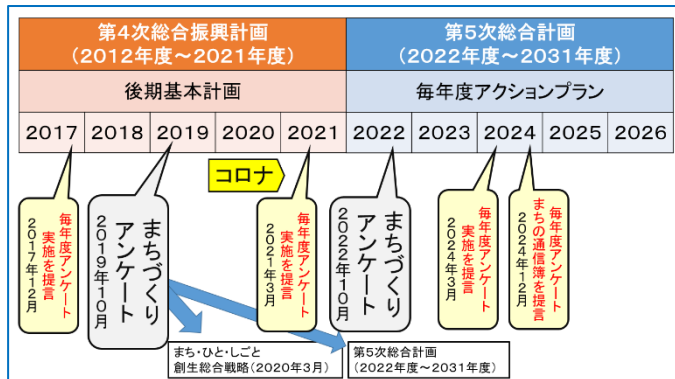
○奴間健司 ぜひこの取組を広げていただきたいと思います。

**毎年度実施する市民意識調査が必要ではないか**

さて、尼崎市の通信簿の基礎なんですけど、毎年実施している市民意識調査アンケート、そこがど

うも肝なんですね。先ほど冒頭に聞いた事務事業の評価とか市長メッセージとか第5次総合計画総括とか、これ共通して言えるのは毎年意識調査をしてるかどうかというのが今回1つのポイントです。

画面をお願いいたします。



古賀市では、まちづくりに関するアンケートはどれだけ行っているかといいますと、2019年10月、2022年10月に実施しております。先ほど答弁お聞きしましたら、来年まち・ひとの総合戦略ですか、その関係もあって予定しているということです。結果的には3年に一度となるかと思うんですね。私は、実は2017年12月、2021年3月、そして今年の3月の一般質問で、毎年度アンケートを実施してはどうかという提言をしていました。提言し始めて8年目、4回目の提言で8年も言い続けて実現できないぐらいの力なのかと言われてしまいそうなんですけど、そろそろ実現してもいい時期ではないかなと思って今回改めて取り上げてみました。いかがでしょうか。

○田辺一城市長 もちろん毎年度やることにも意義があると思います。一方で、毎年度やらなければならないものなのかというところも含めて考える必要はあるかだと思います。

○奴間健司 3年に一度では、各部各課が毎年度の施策評価を行うための市民評価の直近のデータがないという状態が続いていくと思います。必要かどうかという議論よりも、まず事実としてはそういうことになるとは思いますけどどうお考えですか。

○田辺一城市長 今、議員御提起いただいでるんですね、まちづくり、何ていうかな、全体全般をターゲットとしては調査というのも、今おっしゃっ



ていただいたように、3年に一度今やっている状況ですけれども、そのほかにも例えば特定の計画ですね、介護に係る計画だったり子育てに係る計画だったり、そういった計画をつくるときにもその分野に特化したアンケート調査をやっていることももちろんあります。ですから、そういう意味においては、多岐にわたるアンケートを実施しながらですね、市民の意識を捉えていると言えます。

○**奴間健司** 今回は、個別計画のアンケート、確かに実に多くのアンケートがあることは承知していますが、まちづくり全体に対するアンケートに絞っていきたくと思っています。

画面をお願いいたします。

毎年、まちづくりアンケートを実施している自治体	
柳川市	市政アンケート 7月実施、11月結果公表
筑後市	まちづくりアンケート 1月～2月実施、5月結果公表
関市	「せきのまちづくり通信簿」 11月～12月実施、3月結果公表
大野城市	まちの姿アンケート（5年に1度は満足度・重要度調査） 1月実施、3月結果公表 ※予算：数十万円
尼崎市	「まちの通信簿」 2月実施、8月結果公表 ※予算：150万円

他の自治体の取組を調べてみました。柳川市、毎年7月にアンケートを実施し11月に結果を公表。筑後市では、毎年1月から2月にかけてアンケートを実施し5月に公表。岐阜県関市では、11月から12月にかけてアンケートを実施し翌年3月に結果を公表し、ここでも「せきのまちづくり通信簿」という名称を使っていました。大野城市、1月にまちの姿アンケートを実施し3月に結果公表。職員自らが取り組み、予算は1回につき数十万程度とのことでした。先ほど紹介した尼崎市では、毎年2月にアンケート、8月に施策評価結果を公表し、同時にまちの通信簿を公表、予算は150万円程度。こうやって見ますと、自治体の規模の大きい少ないにかかわらず、毎年度まちづくり全般に係るアンケートを実施している自治体があるということは参考にしたほうが良いのではないかと思います、いかがでしょうか。

○**田辺一城市長** ほかの自治体の取組で本市がや

っていないことがあるならば、参考にはなると思っています。

○**奴間健司** 先ほど、たしか市長、直接市民からいただいた声を反映するとか、掛け合わせという言葉がありました。これはもう誰もが認めるんですが、市長は精力的に現場に出かけ、あらゆる行事で交流しているのは高く評価をしています。ただ、まちづくりの進み具合を評価する統計として有効なデータ、しかもそれを毎年取り続けていく。そのことをですね、今日はちょっと絞って提案し、市長にもぜひそこは理解してほしいと思ってるんですが、いかがでしょうか。

○**田辺一城市長** もちろん毎年度意識調査をすることによる統計的な意味はあると私も思います。

○**奴間健司** じゃあどんなアンケートなのかというところに入っていきたいと思っています。

画面をお願いいたします。

古賀市のアンケート 3年に一度 (注: 1. 3年周期で実施)		尼崎市のアンケート 毎年実施 (注: 1. 毎年実施)																																																																																																																						
総合計画に関する20の施策と行政運営																																																																																																																								
3. 市役所の取り組みの評価																																																																																																																								
あなたは、総合計画に掲げる20の施策と行政運営について、市の職員の現状と今後の改善性を〇をつけてください。また、施策に5年以上は実施されているもの、5年前の比較についてお答えください。																																																																																																																								
施策内容		現状の状況																																																																																																																						
		満足度	改善の必要性																																																																																																																					
		1 2 3 4 5	1 2 3 4 5																																																																																																																					
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施策内容</th> <th colspan="2">満足度</th> <th colspan="2">改善の必要性</th> </tr> <tr> <th>現状</th> <th>5年前</th> <th>現状</th> <th>5年前</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合計画の推進</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>市民参加の推進</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>子育て支援</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>高齢者対策</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>防災・減災対策</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>環境対策</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>文化・スポーツ振興</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>国際交流</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>観光振興</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>都市再生</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>交通・道路整備</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>防災・減災対策</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>環境対策</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>文化・スポーツ振興</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>国際交流</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>観光振興</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>都市再生</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>交通・道路整備</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>				施策内容	満足度		改善の必要性		現状	5年前	現状	5年前	総合計画の推進	1	2	3	4	5	市民参加の推進	1	2	3	4	5	子育て支援	1	2	3	4	5	高齢者対策	1	2	3	4	5	防災・減災対策	1	2	3	4	5	環境対策	1	2	3	4	5	文化・スポーツ振興	1	2	3	4	5	国際交流	1	2	3	4	5	観光振興	1	2	3	4	5	都市再生	1	2	3	4	5	交通・道路整備	1	2	3	4	5	防災・減災対策	1	2	3	4	5	環境対策	1	2	3	4	5	文化・スポーツ振興	1	2	3	4	5	国際交流	1	2	3	4	5	観光振興	1	2	3	4	5	都市再生	1	2	3	4	5	交通・道路整備	1	2	3	4	5
施策内容	満足度		改善の必要性																																																																																																																					
	現状	5年前	現状	5年前																																																																																																																				
総合計画の推進	1	2	3	4	5																																																																																																																			
市民参加の推進	1	2	3	4	5																																																																																																																			
子育て支援	1	2	3	4	5																																																																																																																			
高齢者対策	1	2	3	4	5																																																																																																																			
防災・減災対策	1	2	3	4	5																																																																																																																			
環境対策	1	2	3	4	5																																																																																																																			
文化・スポーツ振興	1	2	3	4	5																																																																																																																			
国際交流	1	2	3	4	5																																																																																																																			
観光振興	1	2	3	4	5																																																																																																																			
都市再生	1	2	3	4	5																																																																																																																			
交通・道路整備	1	2	3	4	5																																																																																																																			
防災・減災対策	1	2	3	4	5																																																																																																																			
環境対策	1	2	3	4	5																																																																																																																			
文化・スポーツ振興	1	2	3	4	5																																																																																																																			
国際交流	1	2	3	4	5																																																																																																																			
観光振興	1	2	3	4	5																																																																																																																			
都市再生	1	2	3	4	5																																																																																																																			
交通・道路整備	1	2	3	4	5																																																																																																																			

これ、ちょっと細かくて恐縮ですが、データは後でゆっくり見ていただきたいんですが、左は古賀市のアンケートですが3年に一遍。設問内容はですね、総合計画にある33事業について、満足度を5段階で聞いていますが、設問の表現ってまちまちだなと思います。古賀市では例えば「すべての市民の人権が尊重されている」、これに対して満足度を聞いているんです。「人権施策について」ではない。33事業を聞いた後に、以上から重要と思う事業を1位から5位までを選択してくださいとなっているんですね。

一方、右は尼崎市なんですが、20の施策について、設問内容は似ていますが結果ではなく、例えば人権尊重、こんな取組をしております、これについて評価してください。そして、また重要

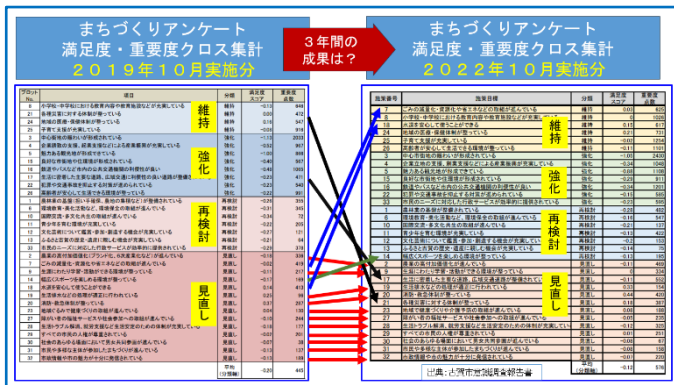
性については、以上の中からではなくて改めて一つ一つについて5段階で重要性を聞いています。さらに、5年以上居住している方には5年前と比較してどうですかという質問もあるんですね。

こうやってみると、さすが長年継続しているだけあって、尼崎市の手法というのは参考になるな、アンケートの設問の在り方自体も大いに比較検討したほうがいいなと受け止めたんですが、市長、いかがでしょうか。

○田辺一城市長 いや、参考になります。一方で、うちのアンケートの手法もいいのではないかなと思いつつ、今比較対照して見ておりました。どちらも良きところがあって、最後は価値観になるんでしょうけれども、どちらも優位なところもあるということだろうと思います。一市民として、尼崎の、いや、けちつけるわけじゃないんですけど、5年前と比べてどうですかって、どうやったら僕答えられるかなとちょっと思いながら、思い出せるかいな、5年前の状況とは思いましたけれども。だから、それでも聞く意義はあると思いますし、よりよいアンケートの形だと思手法をそれぞれが判断していけばいいのかなと思って見ました。

**古賀市の努力 満足度・重要度のクロス集計**

○奴間健司 古賀市の取組も非常に頑張っていると私は感じたんですね。ちょっとそれを紹介したいんですが、画面をお願いします。



これは、満足度と重要度をクロス集計したらどうかということをお前申し上げたことがあるんですが、過去2回のアンケート結果をずっと見ていくと、こんな資料があったんですね。細かい字は別としてですね、実はクロス集計した結果、各事業について維持すべき事業、強化すべき事業、再検

討すべき事業、見直しすべき事業まで分類しているんですね。すごいなと思いました。例えば見直し、つまりあんまり芳しくない項目ですね、2019年は14件だったんですが、3年後どうなったかって推移を見たら、2件が維持に移動し、1件は再検討へ移動したんですが、実は2件が維持から見直しへダウンしてるんですね。プラスマイナス結果として見直しは13件。じゃあ何が維持にアップしたかというのと、ごみの減量と水道の安心という2つの事業でした。これはですね、非常に丁寧な分析だなと思うんですが、一方でこれも3年に一度では対策が後手後手になってしまわないかな、あるいは市民の評価が大きくぶれちゃうと、正確にその判定ができるのかなという心配も抱きました。どうですか。

○田辺一城市長 後手後手、こういったアンケートだけでマネジメントしているわけではないですからね、先ほど議員がおっしゃっていただいた、私自身もそうですし、市役所の職員も日々様々なお立場の市民の皆様の声を聞いておりますし、先ほど申し上げたようなその他の個別の計画による意識を捉えたりとかしてしますので、そういったことを総体として市政全体は運営しているつもりであります。

○奴間健司 先ほど教育委員会のほうは、毎年度強化すべき拡充とか維持とか、毎年度分類して、それが次に活かされてるんですね。ですから、やっぱり3年に一遍でもやってるだけ私もすごいって評価はするんですが、それは毎年度の事業展開にはどうしてもあったほうがいいのではないかなということで、今回もう一回提案してるので、毎年度にこだわるんですが、いかがですか。

○田辺一城市長 もちろん、だから毎年度こうしたアンケートを取る意義というのは、私自身も認めるところであります。これを毎年度を実施するかどうかというのは、本市の職員の状況だったり、財政の状況、前者ですね、特に、職員の業務の状況等も勘案しながらですね、検討していくべきことかなと思います。

○奴間健司 先ほどの尼崎市の通信簿の背景につ

いて、ヒアリングを受けると新たな気づきがありました。

### 施策評価の結果が次年度予算編成の「起点」

画面をお願いいたします。

尼崎市の「まちの通信簿」 そのベースとなっている施策評価の考え方	
<b>施策評価の目的</b> ①PDCAサイクルを通じた 総合計画の着実な推進 ②施策間連携の確認及び効果的・ 効率的なまちづくりの推進 ③市民の市政参画の推進 ④職員の政策立案能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 毎年度振り返り、施策の成果や課題、今後の取り組み方針を評価</li> <li>● 施策評価の結果を起点として次年度の予算編成につなげ、新たな事務事業を推進</li> <li>● まちの通信簿 目標を数値で示すとともに、課題や方針をわかりやすく公表</li> <li>● 目標や課題を市長から担当者までが共有し、職員一人一人が目指すべき方向性を意識し、事務事業の改善や新規政策の立案につなげる</li> </ul>

これ、どこでも共通してる面はあるんですが、施策評価の目的を4点に整理したものでした。私が注目したのは、PDCAサイクルにおいて施策評価の結果を起点としている、この言葉なんですね。施策評価の結果がスタートであるという点なんですね。その一環として「まちの通信簿」、市民の市政参画を推進する。この評価については市長から担当者までが共有している。そのことが新たな新規政策の立案につながるんだというサイクル、この考え方は当然だと言われるかも分かりませんが、やっぱりいざ実践、定着させようとするとなかなか難しい課題であり、古賀市は大いに参考にすべきサイクルではないかと感じました。いかがですか。

○田辺一城市長 ですから、本市としてはアクションプランを毎年度見直すという、このローリングを他の自治体がまだほとんど取り組めていませんけれども、そういった手法を採用して、まさに毎年度のそれぞれの事業の状況だったり進捗をしっかり捉えながらですね、毎年度毎年度ローリングしているわけですね。ですから、これは今議員がおっしゃっていただいたところ、重要なことだと思っておりますし、また市議会にも御報告し、決算の審議を次の翌年度につなげるという営みもやっておりますので、おっしゃっていただいたところの重要性は理解しておりますし、別の手法と捉えられるかもしれませんが、我々としてはそれを実践しているというところでありませう。

○奴間健司 くどいようで恐縮なんですが、もう

一つだけ学んだ手法についてなんですけど、画面をお願いいたします。

尼崎市の「まちの通信簿」 施策評価の第一歩は毎年の市民意識調査	
<b>施策評価の評価手法</b> ①施策別の評価 ②行政運営の評価 ③主要取り組み項目の評価 ④総合指標による評価 ⑤総合評価	<b>市民意識調査</b> 市内在住の満15歳以上の市民から無作為で3,000人抽出 <結果の活用> ①各施策の目標指標の数値の把握 ②「重要度」、「満足度」として点数化 <b>担当局評価（一次評価）</b> 市民意識調査結果、目標指標の進捗、審議会等の評価を踏まえ、担当局が評価 <b>市長評価（評価結果）</b> 担当局の評価を受けて市長が評価

このえんじ色で強調したところですが、どこでもローリングしたら評価するんですが、大事なスタートとして毎年度の市民意識調査をきちんと位置づけているわけですね。もちろんこれだけではないんですね。これをベースにして目標指標がどう進捗したか、あるいは場合によっては審議会等からの答申を受けて、担当局、担当課がまず一次評価をする。それを受けて市長が最終的に総合評価するという点です。しかもこれをいつまとめるかという8月にはまとめて市民に公表するとともに議会の決算審査を受けているというサイクル。

確かに、古賀市にはいっぱい成果報告書とか出てるんですが、いま一つピンとこないのは、あれをしました、これしましたという報告はあるんだけど、じゃあ市民はどう評価したのか、それを担当課、そして市長がどう総合的に評価したのかというのが少ない。何かぴんとこない、弱点なのかなと受け止めてるんですね。この手法についてももしかしたら参考にすべきだと思うんですが、いかがでしょうか。

○田辺一城市長 本市が取っていない手法を今提起いただいておりますので、参考にさせていただきます。

○奴間健司 そこで市長メッセージに戻りますが、先ほどの答弁では全庁的に検討すべきって言っていたかな、予算編成に向けてですね、それがメッセージだということなんですけど、画面をお願いいたします。

### 次年度予算編成に向けた市長メッセージの疑問点

これは、10月1日に公表された次年度予算編成



令和7年度当初予算編成のスタートにあたって（市長メッセージ）  
令和6年10月1日 古賀市長 田辺一城

（序文）

- 1 DXを加速すること
- 2 公民連携による共創を意識すること
- 3 人口の維持・増加と雇用創出をめざすこと
- 4 予算編成に向けて特に留意すべきこと  
40数件の具体的事業の実施、検討
- 5 働き方改革、オフィス改革と政策間連携
- 6 新たな財源の確保や既存資源の活用に向けた検討を行うこと
- 7 市議会、市民の皆さまからの意見を振り返ること

に向けた市長メッセージの構成のみ表にしたものであります。大事なポイントが書かれてると私も思います。先ほどの答弁では、このことによって予算編成の見える化を追求しており、当初予算に盛り込む施策について全庁的に検討してもらうという目的だという答弁があったと思います。

しかし、ちょっと疑問が湧いてくる点がありまして、1つは、尼崎市と比較して気づいたんですけど、前年度の施策評価と次年度に向けた方向性は、このメッセージの中で担当課と市長はきちんと一致したものがあるのかなという点。

もう一つは、予算編成に向けて特に留意すべきことの中に、私が数えたら44件、具体的事業が記載されてるんですが、そのうち39件は何々を実施しますと断言してるんですね。5件は検討しなすになっている。全庁的に検討を呼びかけているにもかかわらずメッセージには実施しますと書いてある。これは、つまらないところをつつくわけじゃないんだけど、つじつまが合わないなと率直に感じたんで、どう説明されますか。

○田辺一城市長 市長メッセージですね、私の個人力で全文書いてますけれども、その書くに当たっては、もう日々ですね、もう分刻みでいろんな担当者とやり取りを1年中しています。そのときに、その担当が何を考えてるかというのを、もうその都度つかみつけてます。そうしないと振り返る時間なんかないので。ですから、そうした営みをずっとやっている蓄積を一気にここで書き出しているというのがこの市長メッセージの実態です。

ですから、大前提として私の中に落とし込んでる総合計画なり、毎年度の事業の進捗状況だった

りを全部頭の中に入ってるものを踏まえて吐き出しているというふうに御理解いただけたらというふうに思います。その上で、事業を数えていただいたことには感謝をいたしますけれども、少なくとも私がこの自治体の経営者としてやるべきだと考えていることは、その意思をストレートに組織に落とし込むべきだというふうに考えて書いたのだと思います。

○奴間健司 今日はちょっと爽やかにしたいんで、あまりしかめっ面しないほうがいいなと思うんですが、これ市長メッセージにけちつけようと思ってないんですよ。年間サイクルがどうなのかというところに1例として取り上げたんですね。

もう一回だけ、ちょっと嫌かも分からないけど、市長メッセージの中でこんな記述もあるんですね。「全ての部署で時代を捉えた新たな取組を検討するとともに、費用対効果や優先順位の低い事業については、過去からのしがらみなどにとらわれることなく、廃止、縮小を積極的に進めてください」と呼びかけてる。中身は正しいと思う。だけど、なぜ10月1日の時点でこれなのと私は思うんですね、年間サイクルから思うと。本来は、さっき教育委員会も8月には廃止とか縮小とか見直しはもう終わってる、尼崎市も終わってる。だから、検討結果、前年度までの総括が担当課と市長でもうきちんと共有されているんだろうかというふうに疑問を持ったんですよ。そこはどうでしょうか。

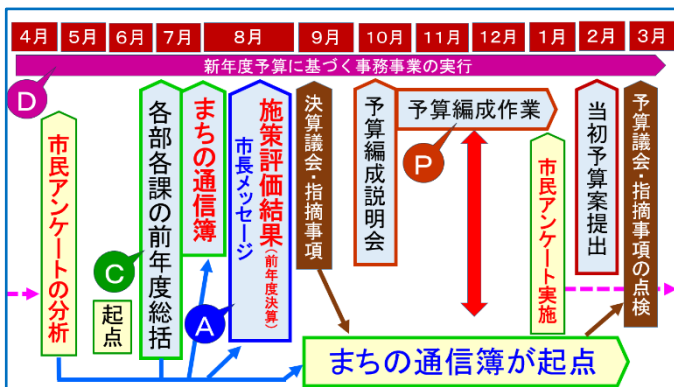
○田辺一城市長 確かに、予算編成のスタートに当たってメッセージを1年に1回、これはもともとなかったからですね、この市長メッセージなるものは。私が市長に就任後に1つの手法としてやるべきだと考えて採用してやってるものです。書いてる内容は、確かにスタートに当たってということを書いてますけれども、先ほど申し上げましたように、書いてあることは、恐らくというか、ほぼですね、自分が関わるなと思う、それぞれの担当がですね、関わるものについては、例えば数か月前から話をしていたことが発露されたなみたいな、何か多分そういうことなんだと思います。だから、ここで聞いて、初めて、何だよこれみた

いな話はないとは言いませんけれども、基本的には日々の営みの中で共通認識が図られていることが1つのメッセージとして発露されるというタイミングと捉えていただけたらと思います。スクラップの話も、いつも言ってることをここでも書いていうことですので、始まりがここですということではないです。だから、意識づけがここで全て始まっているということではないというふうに御理解いただけたらと思います。

### 私の集大成 行政運営の年間サイクルを提言

○奴間健司 市長メッセージの現状といいますか、大変過密な中でよう書いてるなというの分かるんですが、ちょっとあくまで行政運営の年間サイクルという視点から、もう一回論じたいんですね。今日は、ある意味では私の集大成みたいなまちの通信簿をキーワードにした考えをもう一回まとめて説明します。

画面をお願いいたします。



これは、行政運営の私の考える年間サイクルで、3月議会に出した分よりもバージョンアップしています。スタートはどこかと言うと、右のほうの市民アンケート実施になるんです。1月頃毎年実施し、4月頃には結果を分析、各部各課はアンケート結果を踏まえて施策の進捗評価と併せ、施策評価と次年度の方向性を定め、8月頃「まちの通信簿」として市民に公表します。まちづくりの現状評価を共有します。これはP D C Aで言うとCなんですね。チェックです。

市長は、各部各課の総括を受け、施策評価を基に総合的に最終評価し、施策評価結果をまとめ、市民に公表します。同時に議会の決算審査で指摘、提言を受けます。これがAなんですね、アクション。

ン。つまり次年度に向けてこう動くよという第一歩、アクションです。もし市長メッセージにこだわらなかつたら、このアクションのタイミングだと私は思うんです。

そして、決算議会を踏まえて予算編成や次年度の体制づくり、これがP——プランです。当初予算案が議会で審議され可決されれば事務事業の実行D、つまりDOとなります。

### P D C AではなくC A P Dサイクル

#### C・チェック「まちの通信簿」が起点

よくP D C Aと言われるんですが、私の考える順番では、C A P Dサイクルなんですね。Cがスタート。こうした年間サイクルの中に、まさに「まちの通信簿」がC、起点にあるという重みで、今回問題意識を持って提言をしています。いかがでしょうか。

○田辺一城市長 いや、今議員が御提案いただいている手法はもちろんあるなと思ってお聞きしておりました。ただ、基本的に一般で言うP D C Aのサイクルは、我々としても年間スケジュールを組んでやってます。確かに市長メッセージを、じゃあその10月1日の前年度予算編成の説明会をそこでやりませうけれども、さらにその前に出すということももう手法としてはあるなと考えながらお聞きはしていました。ただ、それをどう取るかというところは、マネジメント当事者の判断なのかなとは思っています。

○奴間健司 今日は印象に残したいのもう一回言いますが、P D C AサイクルじゃなくてC A P Dサイクルだって。これはね、やっぱり議会でも決算を起点としてって最近よく言うようになった。決算を起点として年間サイクル、同じ考えなんですね。行政運営もC、つまり市民評価を基本とした行政評価が起点。そしてアクションがある。C A P Dだっていう、ちょっとこれ印象に残してほしいんだけど、どうですかね。

○田辺一城市長 いやいや、言わんとするところは理解できます。だから、一般にP D C Aとされているのは、恐らく何をやるというのがもう全ての始まりに何かをやるということがないと、多

分チェックもできないからですね。だから、一番最初の起点はやっぱりPでないと、何とかな、物事が始まらないので多分一般にはそう言われているのだと思いますが、サイクルが回っていく中で、そのチェックの重要性をやっぱり我々、一般に認識するために今議員がおっしゃっていただいているCAPDという考え方自体は、もちろん私も議員でもあったので、決算審査がそういうものであると思って臨んでもいましたので、その意義は分かります。

○奴間健司 今晚書くブログとかですね、YouTubeで議員から面白いこと提案された、CAPDなんていうのもあるんだな、自分はそうは思わないがというコメントをね、自分がこう言ったああ言ったじゃなくて、こんな提起があったということを書いてくださいよ。そうしないと私やった意味がないんだよね。何聞いても、こう言いましたっていう発信だけじゃ市民分かりませんよ。ぜひお願いします。CAPDという言葉をどっか書いてください。

私はですね、今年の3月、同様のこと言ったときに、市長はこういう答弁があったんですね。行政運営は、過密な中で議員の提言した要素をシステムとしてどれほど盛り込めるか、現在の営みとどう平仄（ひょうそく）を——これ難しいですね、つじつまが合うかですね——考える価値がある部分だっという答弁をしてるんです。考える価値があると言われた。けども、市長の過密性がどんどん増しているとね、ますます考える余裕がなくなっちゃってるんじゃないかなと思いつつ心配になってきてですね、確認したいんですが、過密な中でも考えていただけますかね。

○田辺一城市長 大丈夫です。毎日1万2,000歩歩いている、歩いているときは結構そういった思考をしながら私、歩いています。

○奴間健司 ブログにも書いてください。

今日は12月6日ですよ。こうやって議員は一生懸命12月議会、一般質問しているんですが、一方で予算編成進んでますね、着々と。今どんな段階でしょうか。

○田辺一城市長 市長査定の前の段階です。

○奴間健司 財政課査定が真っ最中で、月末にはもう三役査定に入って、来年の多分1月中旬頃には予算案が固まる見通しですね。私がさっき提言したサイクルはP——プランの部分になります。これはね、一般質問の意味も考えなきゃいけないんだけど、この時点であれこれ施策に注文つけたってね、もう予算固まりつつあるわけです。だから、私は細々したことではなくて中長期的な視野で年間サイクル、こんなふうに来年、あるいは第5次総合計画間に合わないんだったら第6次、市長はずっと市長やるだろうから、第6次までね、頑張ってもらいたい。そのときにはこういうサイクルが当たり前になっていることを私は夢見て、多分私まだその頃いるかも分からない、それを夢見てるんですよ。この問題意識は伝わったでしょうか。

○田辺一城市長 私や議員がどうかというところは置いといてですね、テクニカルな話も含みますけれども、もちろん12月の議会で提起されたことが、じゃあ来年度予算に反映されるのかということについては、いわゆる短期中期長期と様々な御提案、それぞれいただくと思いますけれども、短期でやはりこれはというものがあれば押し込むことは当然ありますし、できます。もちろん行政はですね、行政の、何とかな、内部の予定にのっかってですね、予算編成し査定してやっていますけれども、最終的には、議員今おっしゃった予算案ができる直前まで、来年度どうするんだということは私自身は考えていますし、その意味においては12月で間に合うのかと言われると、間に合うものもあるかもしれないということですし、私が議員のときは結構9月議会、毎回質問してましたけど、9月議会はちょっと気合入れとかなかと思いつつやっていたというのは、テクニカルなところではあります。

単年度で予算編成しているこの行政の特質上ですね、こういう話にはなるんですけども、やはりいつも申し上げている時代の変化が激しかったりですね、予期せぬことが起きたりとか、価値観の変容が起きたりとか、国際情勢が変わったり



等々ありますので、やはりそこは当初予算はもちろん大事なんですけども、そういった状況に応じて即応していけるような、何か姿勢というのでも我々行政には求められてると思ってこの間も、特にコロナもそうでした、やってきましたし、そこは議会にもですね、お願いして毎月臨時会をやっていたのもそういう意味でもあります。ですから、それを日常にどの程度落とし込むかは御相談しながら考えていくことだろうと思いますけれども、少なくとも、いつ議会から御提案されたとしてもですね、それを柔軟に取り入れていくという姿勢は、基本的に持って今やっているつもりであります。

○奴間健司 12月議会での提案が無駄だとは思わないんですけども、年間サイクルから言うとそういうことになるかなと。

ただ唯一、来年度の予定でまち・ひとと関係して市民アンケートですかね、やるという話がさっき答弁ありました。であるならば、ぜひそれを有効にですね、もしそれがきっかけで、やってみて毎年度のにつながるかどうか、その辺は排除せずにですね、CAPDの第一歩として考えていただきたいなど、これだけはちょっとねじ込みたいなと思うんですが、いかがでしょうか。

○田辺一城市長 何事もいい状態に持っていきたいと思ってますので、排除はもちろん、今議員が御提案いただいていることいたしませんしですね、CAPDの議員がおっしゃっている理念と意義については、共有を私はしてるつもりですので、しっかりとそのチェックというところの重要性を意識しながらですね、御提案を受け止めていきたいと思えます。

○奴間健司 市長は、年末から年始にかけて、恐らくまた新しい本を見つけて読破し、施政方針を掲げるのではないかと推察しております。これはしようがないですね、やりたいんであれば走り続けなきゃいけないと思えます。

#### 年末年始立ち止まって年間サイクルを考えて

ただ、頭の中ではですね、少し立ち止まって行政上の年間サイクルの在り方をあれこれ描いてみ

る、そんなことにはちょっと注力していただきたい。これは切なる訴えなんですけど、いかがでしょう。

○田辺一城市長 ありがとうございます。確かに、日々ですね、務め、仕事に取り組んでいると、やはり目の前のことが誰しもやっぱり重視せざるを得ない状況になってくると思います。ただ、やっぱりおっしゃっていただいているように、マネジメントする立場ですので、折々にですね、引いて全体状況を把握したりとかですね、じゃあどうやって次の一步を、半年後とか1年後を見据えてとか、さらに先もそうですけれども、そういう思考をしっかりと日常的にやるということは本当に重要だと思っています。その中にどうやってCAPD、一般で言うPDCAですけれども、こういったものをちゃんと私自身が意識するということは重要だと思えますので、そうした姿勢で引き続きやっていきたいと思えます。

○奴間健司 なかなか私の性格上、爽やかにするの難しいなって自覚はしてるんですけどね、あんまりしかめっ面じゃない質問になったかなと思えます。CAPDがあるということのきっかけになっただけでもやってよかったなと思えます。

#### 2025年を希望の持てる年に！

もうまとめなんですけど、まさに地震や風水害、気候変動に伴う災害の巨大化、命の危険を感じる猛暑も経験しました。総選挙の結果、新たな政治状況も生まれましたが、先行き不透明、世界の動きも不安定、住民に最も身近な地方政治が存在感を増し、市民、行政、議会が力を合わせて時代を切り開くことが求められていると思えます。かわいい子どもたちや孫たちのためにはどんなことも苦にはなりません。2025年を希望の持てる年にしたいものであります。

本日の締めくくりとして、今日の質問を受けての市長の感想と来年の抱負をお聞きしておきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

○田辺一城市長 本日の御提起、行政運営をやっていく上で非常に重要なものだと受け止めていきます。特にチェックですね、日々やっている営みを

きちんと、自らチェックすることはもちろんですが、外部からきちんとチェックをしてもらい、そこからの得たものを次のサイクルにつなげていくという視点、もちろん今もやっているところは当然やってはいますけれども、改めて今回の提起踏まえてですね、その重要性を我々行政としては認識できたと思います。

あわせて、やはり二元代表制でございますので、そういった市民の皆さんだったり外部有識者の皆

さんだったり、だけでなくですね、というかそもそも議会の皆様からいただく御指摘というのをしっかりと受け止めて行政運営をしなければならぬということを中心新たにできたというところがありますので、来年、2025年もしっかりとこういった基本姿勢を堅持して、全庁一丸となってですね、まちづくりに取り組んでいきたいというふうに思います。

## 2024年12月定例会・最終日の本会議の結果概要

### 討論が行われた議案

(2024年12月11日)

議案番号	議案名	質疑	討論		採決結果			
			反対討論	賛成討論	反対	賛成	可否	ぬま
第77号	特別職給与改定・消防団再編関連			大賀	0	18	可決	賛成
第78号	一般職員、任期付職員給与等改正			森 ぬま	0	18	可決	賛成
第79号	議員、特別職の期末手当改定		大賀	ぬま	3	15	可決	賛成
第80号	古賀東中地域開放室関連条例改正			ぬま	0	18	可決	賛成
第83号	2024年度一般会計補正予算(第4号)			森 ぬま	0	18	可決	賛成
会期中の所管事務調査報告		文教厚生委員会が古賀東中において海の漂着物を展示・保管する件について報告。新聞報道されたような資料館ではなく旧技術科室を利用するもの。						
発言の取消・訂正		2名の議員から一般質問中の発言の一部を取消、訂正する申し出があり許可された。						

12月定例議会最終日の本会議の討論と採決結果  
議員、市長等の期末手当改定は賛否が分かれました  
私は討論を4件しました  
発言の取り消しが2件ありました

## 12月定例会・一般会計補正予算賛成討論

### 18歳までの子ども医療費無償化について慎重検討を指摘

2022年度比で1億6千万円の増見通し

市財政への負担無視できず

### 一般会計補正予算（第4号）に対する賛成討論

#### 指摘事項

2024年12月11日 古賀市議：奴間健司

その上で1点だけ指摘事項を述べます。

**子ども医療費の18歳までの無償化の検証です。**

子ども医療費扶助費は、当初予算では2億8704万8千円でしたが、今回6795万2千円増額補正により3億5500万円になる見込みです。

これは子ども医療費の無償化実施前の2022年度決算と比較すると1億6481万4千円の増となります。今年3月議会での説明では無償化拡大で7437万円程度の増額との説明でしたが、今回の補正で2倍以上の伸びとなる見込みです。

市長は大綱質疑で、「無償化を行ったことで、当初の見込みより医療費の心配をせず、ためらわず必要な医療を受診する機会が増えた」と説明したうえで、無償化の影響のほか、診療報酬の改定や感染症流行などその他の要因も考えられると答弁しました。

**正確に言うなら、無償化の制度の下では、診療報酬の改定や感染症等が流行すれば、ストレートに扶助費が増額となり市の負担は増えるということです。**

この点は9月決算審査の市長質疑でも取り上げました。私は、無償化の効果検証と、小中学生の血液検査による生活習慣病予防など保健予防事業の徹底を求めました。市長は、「子どもについて過剰受診はあまり想像できないが、財政への影響は見ていく必要がある。無償化はしっかり継続するが提起を参考に効果検証もやっていきたい」と答弁しています。

この無償化を持続可能なものとするためには以下の3点が必要な条件だと考えます。

- ①国が責任をもって全国的に18歳までの子ども医療費無償化を実施すること。
- ②子育て世代への支援の結果として若い世代の人口流入が増え、その結果として税収増が実現すること。
- ③子ども特定健診の実施により小中学生からの生活習慣病予防、健康教育の効果が出現すること。

**以上の3点が実現されないまま無償化を継続すれば市財政への負担は限界を越えることが推察されます。今回の補正予算がその端緒にならないか危惧の念を抱きます。**

この視点をしっかり持って無償化の影響、効果や課題を把握し検証することを強く指摘しておきます。以上、第83号議案に対する賛成討論とします。



### 一般職・任期付職員の給与等改定に対する賛成討論

2024年12月11日 古賀市議：奴間健司

第78号議案・古賀市一般職の職員の給与に関する条例及び古賀市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の立場で討論します。

第78号議案は、人事院勧告に基づき、若年層に特に重点を置きつつ、初任給等の大幅引き上げやすすべての職員を対象に給料表の引上げ改定を行い、期末・勤勉手当を0、1月分引き上げるほか、任期付職員の給与改定を行うものであり、国家公務員に求められる給与水準に準じた給与改定がその特徴とのことです。

民間給与の状況を反映し、約30年ぶりとなる高水準のベースアップと言われていました。

一般会計補正予算では、人件費の増は2億137万8千円ですが、**人事院勧告に基づく一般職の給与等の影響額は1億7220万8千円**となっています。人件費は義務的経費であり地方交付税措置されるものです。

人事院勧告を尊重し、多様な人材が集まり、一人一人が高い志をもって職務を遂行できる魅力ある公務という高い目標を実現するために必要な改定と判断し、本議案に賛成します。

今回の提案は、**閣議決定がなされない、従って国会決議もない下での提案**でした。この判断については、12月上旬には閣議決定されるという見込みや福岡県が人勤と同様の勧告をしたこと、近隣自治体の動向をみて判断したとのことでした。政局が影響する時期の難しい判断だったと思いますが、今回の判断は、間違いなく年内に改定した給与等を支給するという点で賢明な選択と評価します。大綱質疑を行った翌日、11月29日に閣議決定となりました。

国連基準が基本となっていますが、質疑を通じて留意すべき課題も明らかになりました。

**地域手当**については、従前から課題として認識されていることは確認できました。職員組合の声を聞きながら別途検討しているとの答弁がありました。この進捗は今後、追跡していく必要があります。

**ラスパイレス指数**が福岡県内の市の中で最低という課題については、任期付き職員の給与表を改定する、のちの確認では10%アップとのことですが、劇的ではないにしても改善を図るとの答弁がありました。この結果は、来年2025年12月の公表時期まで待たねばなりません。効果検証を忘れないよう追跡する必要があります。

また、古賀市では、この議案を提出するにあたり、**給与改定基本方針**を策定していないことも質疑で確認しました。給与等の改定の数字面だけではなく、魅力ある公務をどう実現するのか、メンタルヘルス、ハラスメント防止、ワークライフバランス、健康経営など総合的な取組を含まれた給与改定基本方針が必要ではないかと考えます。この点は他自治体の取り組みも調査研究する必要があります。

以上、第78号議案に対する賛成討論とします。

給与、期末手当改定  
賛成討論  
討論では賛成の理由と  
指摘事項を  
必ず述べています

1月22日の総務委員会で福岡県が公表した2024年4月1日時点での古賀市のラスパイレス指数が報告されました。94%（対前年比0.6%増）で県内市町村の中での順位は55位。一般市では最下位です。

### 議員・特別職の期末手当改定に対する賛成討論

2024年12月11日 古賀市議：奴間健司

第79号議案・古賀市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例及び古賀市特別職の職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の立場で討論します。

第79号議案は、人事院勧告に基づき、**議員及び市長等三役の期末手当を0、0.5月分引き上げ**しようとするものです。この動きは福岡県や近隣自治体でも同様の提案がされているようです。

質疑やヒアリングを通じて、具体的金額では、**議員で年間平均2万5千円、三役で年間平均4万6千円**の引き上げであること。また今議会に提出されている**一般会計補正予算の中には、議員19名分の49万円、三役の14万円が計上**されていることがわかりました。いずれも期末手当分です。

私は、**人事院勧告の尊重、一般職の職員の期末勤勉手当の状況や県並びに近隣自治体の動向を**鑑み、この改定に賛成します。市民の理解は得られると認識します。

質疑で議員、三役の報酬、給料の改定に対する考え方を取り上げました。期末手当の背景にあるからです。答弁では、今回の人事院勧告は議員、三役については期末手当に影響するもののみであったことから報酬、給料の改定は行わないとのことでした。

議員、三役の報酬、給料の改定の経過について、大綱質疑でははっきりしませんでした。総務委員会での審査や個別ヒアリングにより正確な経過を把握できました。

**三役については**、1997年度、平成9年度に市長の月額給料8万5千円など現在の給料に改定されました。途中、行革で減額措置されたことはありますが、その時の給料が現在の給料となっています。つまり、**市制施行以来27年間据え置かれた状態**です。

**議員は**、1997年度、平成9年度に改定されたあと2回改定され、2002年度、平成14年度に現在の報酬、一般議員月額40万円となっています。2018年度、平成20年度に5%の自主カットを行っていますが、その後、現行の報酬となっています。つまり、**22年間据え置かれた状態**です。

大綱質疑で、今回は期末手当の改定ですが、報酬、給料が長きにわたって据え置かれている現状を何とかすべきではないかと投げかけました。議員も三役も20年以上を経過し、質、量ともに仕事量は上がっていると思います。議会は特に2014年度から議会基本条例を施行し議会力アップに努めています。議員も生活基盤があってこそ意欲的な活動が可能となります。特に将来を考えると、若い世代が積極的に活動する環境を整えることは大事な戦略的課題です。

市長は、社会にどう捉えられているかを踏まえ慎重に考えるべき案件との答弁でした。同時に議員、三役の報酬等の在り方を検討する審議会への諮問については含みのある答弁でした。

私は、報酬、給料についても今後、慎重かつ積極的に検討されることを求めます。

以上、79号議案に対する賛成討論とします。

市長等の給与は27年間据え置き  
議員の報酬は22年間据え置き  
若い世代が活躍できる環境を

## 2024年 私にとっての古賀市10大ニュース (選択編集：奴間健司)

①	元旦に能登半島で震度7の地震発生 (1月) 被災地への支援物資輸送、義援金等に取り組む。古賀市でも津波避難指示発令
②	千鳥駅東口埋蔵文化財発掘調査終了 (1月)、駅前ロータリー整備工事に着手 (4月) 2025年3月末までの完成予定
③	18歳までの子ども医療費無償化へ (4月～) 12月補正で2022年度比1億6千万円増見込み判明、見直し含め効果検証を指摘
④	トライアルと災害協定締結 (屋上駐車場を避難所に、飲食物提供等) (5月) 古賀市花見のプラムガーデン跡地にトライアルが出店 (6月)
⑤	熱中症警戒アラート発令が続く (7月～) 命の危険を感じる猛暑を経験
⑥	「原爆と人間展」で古賀市在住の被爆者がオンラインで報告 (8月9日) 長崎で2歳の時に被爆した立花さんが被爆体験を語る
⑦	小児生活習慣病予防健診事業を文教厚生委員会で視察 (10月) 小中学生の血液検査による健診を行っている高松市を議員6名で視察
⑧	衆院総選挙の結果、与党が過半数割れ。少数与党の政局始まる (10月) 古賀市を含む4区では自民当選、国民、維新が比例復活
⑨	大岩俊夫氏が「文化の日記念式典」で社会貢献者表彰 (11月) 「地域医療と市民を結ぶ会」代表の大岩氏が保健衛生分野貢献者として表彰
⑩	市役所窓口短縮、小中学校体育館空調整備、コガバス新宮延伸等 (具体化は2025年) 職員提案、庁議での活発な審議。効果検証は市民評価と議会チェックにかかる。

(私事ですが) 娘夫婦に双子の娘が誕生。孫が5人になりました。(10月)  
また、第17回第九演奏会で合唱団員として歌いました。(12月)

## 2024年 私にとっての古賀市議会10大ニュース (選択編集：奴間健司)

①	4年ぶりの議会報告会を議員全員で開催 (4月) コロナ禍で中断していた議会報告会を4年ぶりに開催。
②	議会運営委員会で取手市議会と柏市議会を視察 (7月～8月) 決算審査、オンライン対応、ハラスメント防止条例を学ぶ。今後はどう生かすか。
③	看護大学生との交流、パートナーシップ協定10年 (6月) 松尾先生が10年を振り返り講演
④	文教厚生委員会で佐伯市、大分市を視察 (1月) さらに高松市、丸亀市を視察 (8月) 市民建産委員会も視察、総務委員会は2025年1月に視察
⑤	タブレット活用検討会で福津・嘉麻市議会を視察 (7月～8月) ペーパーレスシステム更新に向けた比較検討作業を継続
⑥	議運でオンライン化に向けた条例・会議規則の改正案を検討 2025年3月定例会に改正案を提出予定
⑦	議運として視察受入。災害対応要綱、政策推進会議等を説明 赤穂市 (7月) 千葉市 (10月)、能美市 (10月)、佐倉市 (10月) 各議会
⑧	久留米市議会全員研修会で議会活性化について講演 (10月) 常任委員会での所管事務調査と結果報告などについて経験発表
⑨	議員有志4名で福岡市認知症フレンドリーセンターを視察 (11月) ユマニチュードについて福岡市の経験を学ぶ
⑩	月刊「地方議会人」に私の想いを「議会人の声」投稿 (11月) 「次世代の議員にはライフワークのような得意分野を持ってほしい」と記載

議会としての視察研修や議員個人としての講演や投稿など活発な1年でした。

2024年の振り返り	
ぬま健司の一般質問における政策提言の経過	
定例会	テーマ
2024年 3月定例会 3月18日	<b>古賀市の施政方針の歩み ～その意義と課題を探る～</b> ●1995年に私が <b>施政方針</b> の必要性を提言してから現在までの経過を解説 ●施政方針作成のサイクル並びに招集告示と同時に公表することを提言 ●小学校区コミュニティをまちづくりの中心に据えることを提言
2024年 6月定例会 6月17日	<b>出生数の過去最低更新 ～現状認識と対策を探る～</b> ●2023年度の古賀市における出生数372人は過去最低を更新 ●市長は本質的対策を講じてこなかった政治、行政の責任は重いと答弁 ● <b>第2子以降の保育料の無償化</b> を実行すべきと提言
2024年 9月定例会 9月10日	<b>子どもの自炊力100%を目指して ～現状認識と対策を探る～</b> ●教育指導要領でご飯・みそ汁が作れることを掲げていることを確認 ●市内の <b>プロの料理人を講師に「自炊塾」</b> を開催することを提言 ●尿検査による塩分摂取量測定については今後の課題として研究が必要
2024年 12月定例会 12月6日	<b>「まちの通信簿」の導入を ～共創のまちづくりをめざして～</b> ●まちづくりの評価を問う <b>アンケート</b> を <b>毎年度実施</b> することを提言 ●PDCAではなく <b>CAPDサイクル</b> を基本とすることを提言 ●予算編成作業に入る時の市長メッセージの在り方について一石投じる
◆一般質問の記録を「提言詳細」という冊子で残しています。 ◆提言した結果については予算・決算審査や今後の一般質問で追跡します。	

2024年のぬま健司の一般質問の記録  
提言が実現できるようフォローします



オンライン対応に向けた委員会条例、会議規則改正について議会運営委員会での協議結果がまとまったことから渡議長に答申書を提出。(2025年1月16日)  
3月定例会に議案提出予定。



岡山県笠岡市議会の議会運営委員会が災害対応とオンライン委員会について古賀市議会の取り組みを視察。議会運営委員長として説明させていただきました。(2025年1月30日)



2025年第1回臨時会・議案概要	
2025年1月21日 9時30分開会	
第1号議案	専決処分について（リース車両の車両火災による中途解約に伴う和解について）
第2号議案	令和6年度古賀市一般会計補正予算（第5号）について 補正額の総額は1億7620万3000円。歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ28億775万7千円とする （財源は国庫補助金：1億7552万円、県補助金：68万3千円） ●物価高騰に直面する低所得世帯の支援のための緊急支援給付金の増（補正予算額：1億6450万円、担当課：福祉課） （概要）国の制度に沿った物価高騰に直面する低所得世帯への支援策。住民税非課税世帯に一世帯当たり3万円、当該世帯のうち18歳以下の児童のいる世帯に一児童当たり2万円を支給
	●【市独自】物価高騰に直面する福祉施設等の支援のための物価高騰対策福祉施設等支援金の増（補正予算額：1093万9000円、担当課：健康介護課、福祉課、子ども家庭センター） （概要）物価高騰に直面する福祉施設等への支援策。市指定の介護サービスや障がい福祉サービスを提供する事業所及び保育施設等に支援金を支給
	●【市独自】物価高騰に直面する保護者の支援のための高等学校等入学支援金の増（補正予算額：8万円、担当課：学校教育課） （概要）物価高騰に直面する高等学校等入学者の保護者への支援策。高等学校等入学支援金の支給金額を令和7年度入学者から一人当たり5000円増額

2025年第1回臨時会  
低所得者への緊急支援給付金 更なる物価高騰対策  
が当初予算に提出されるか注視します



リーパスプラザこがの駐車場について市民グラウンドを候補地とすることが報告されました。2025年度に調査委託するとのことですが、現在の利用者への対策は不透明であり今後の検討内容を注視したいと思います。また市民体育館については市内の公園への移転新築が検討されていることも報告されました。（2025年1月24日・文教厚生員会）



コガバス（小竹線）が新宮中央駅に延伸されました。小竹地域の皆さんが通勤・通学に活用されることが期待されます。私は職員の皆さんとともに古賀バスの運行を見学しました。（2025年1月27日）

文教厚生委員会・所管事務調査報告（2025年1月28日） 産後ケア 利用実績が急増 実施医療機関1カ所増		
期 間	2024年4月～12月末実績 (9か月)	2023年度実績 (12か月)
利用実績	36人	22人
サービス概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●産後ケアで自己負担2500円/回で産後正味5か月間に7回利用できるサービス。ショートステイ3泊とデイサービス1回まで利用できます。</li> <li>●ママと赤ちゃんが1泊した場合自己負担は5千円ですが市が3万7千円補てん。双子ちゃんの場合でも自己負担は同額で、補てんが1千円増となります。</li> <li>●12月定例会で60万5千円の増額補正を可決。補正後の利用見込みはショートステイが34人、デイサービスが19人となっています。</li> </ul>	
指 摘	<ul style="list-style-type: none"> <li>●利用増に対応するための拡充策を質疑したところ、愛和クリニックと石田レディースで実施していましたが昨年12月に宗像セントラルクリニックと新たに契約していたことがわかりました。</li> <li>●利用可能期間が生後正味5か月間となっていますが、これを1歳まで拡大できないか要望をしています。</li> </ul>	



文教厚生委員会における  
 閉会中の所管事務調査の記録  
 （2025年1月28日）

利用者増の産後ケア、産前産後ヘルパー

文教厚生委員会・所管事務調査報告（2025年1月28日） 産前産後ヘルパー 利用実績が急増		
期 間	2024年4月～12月末実績 (9か月)	2023年度実績 (12か月)
利用実績	21人、143回	16人、101回
サービス概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●産前産後に自己負担500円/時間で1歳未満まで20時間利用可能。多胎児の場合は1歳半未満まで40時間利用可能。料理、掃除などとてもありがたいサービスです。</li> <li>●市が1時間当たり1880円委託料を負担。</li> <li>●社会福祉協議会、グリーンコープ、エフコープが受託。</li> </ul>	

**骨密度測定による子どもの健康づくり  
血液検査による生活習慣病予防の必要性を提起**

<b>骨密度測定の対象</b>	全小中学校の小学4年生と中学1年生
<b>日 数</b>	生活習慣調査5日間、骨密度測定と健康講話に1日間、2回目の生活習慣調査に5日間
<b>スタッフ</b>	●健康介護課の職員 ●健康づくり推進員など
<b>予 算</b>	●消耗品、検査結果の用紙・インク代、タブレットシステム（福工大と作成）、サーバーレンタル料など
<b>血液検査導入自治体との比較</b>	<p>①家族歴を調査しないとのことだが、家族性高コレステロール血症等の発見には必要不可欠。</p> <p>②骨密度データで健康課題を把握できるか。中性脂肪や悪玉コレステロール、HbA1cなど血液検査結果が必要不可欠。</p> <p>③健康講話や「たより」で行動変容を実現できるか。学校医・義護教諭・栄養教諭によるフォロー、更にかかりつけ医の治療など個別指導が必要不可欠。</p> <p>④小4と中1で測定するが毎年度実施するのか。骨密度データではトラッキングは難しいのではないか。</p> <p>⑤肥満児だけに注目しては見落としが多い。HbA1c、血糖値などの基準越えは肥満度が正常な児童生徒の中にも存在する。</p>
<b>私の意見</b>	●田辺市長並びに担当部署は「血液検査ではなく骨で行く」ことを選択した。それでは生活習慣病予防を十分達成できないことを認識すべきである。早めの軌道修正を図られることを期待する。

課題の抽出、改善点の指摘などを行っています（2025年1月28日）  
文教厚生委員会における閉会中の所管事務調査の記録。委員会では現状把握、

骨密度測定による子どもの健康づくりの課題を指摘  
血液検査による子ども特定健診の必要性を引き続き提言します

「ぬま健司の提言詳報（第30号）」 発行日：2025年2月15日 発行者：奴間健司

●事務所 〒811-3113 福岡県古賀市千鳥2-3-7 安部ビル103 ☎092-944-2639

●自宅 〒811-3112 福岡県古賀市花見東5-4-10 ☎092-943-4427